

秋田県産神代木について

この製品に使われた神代木（埋もれ木）は約 2500 年前（紀元前 466 年）、秋田県と山形県にまたがる鳥海山が噴火で山体崩落を起こした際、自生していた森の樹木が地中深くに埋没したものです。

数年前、道路工事中に発見され、長い眠りから覚めたこれらの木材は、希少性の高さの特微的な木理から、大変貴重な工芸材料として珍重されてきました。

特に仏具として利用される場合、この神代木は何物にも代えがたい特徴を持っています。それはお釈迦様が亡くなられた紀元前 544 年に、この樹木が生きていたということです。

よく知られているように、樹木は空気中の二酸化炭素を葉から吸収して木材を作ります。その二酸化炭素には、元々、生物の体を形成していたものが多く含まれています。もちろん我々人間の体内にも天文学的な数の炭素が存在しています。

体内にある炭素が一気に空気中に出て行く時があります。それは、我々が死んで火葬される時です。我々の体を形成していた炭素は、焼かれることによって空気中の二酸化炭素となり、世界中に拡散していくのです。

お釈迦様は、死後すぐに火葬されたと言われていました。お釈迦様の体内にあった膨大な数の炭素も広く拡散し、当時生きていた世界中の樹木に吸収されたはずですが。

この神代木の中には、本物のお釈迦様の体を形成していた炭素原子が何個か存在しているかもしれません。信じるか信じないかは、あなた次第ですが、この神代木はそんなロマンを感じさせてくれる貴重な素材なのです。

秋田県立大学名誉教授 前木材高度加工研究所長 農学博士 林 知行